

「会社の未来に向かって、マンツーマンで社長さんと話し合い。」

5年後の会社をどうするか、一緒に悩むことから未来会計は始まります」

「若手社員が企業の経営者と話す機会なんて、普通はめったにないじゃないですか。でもこの仕事は、はじめて行っているいきなり社長さんと話せるのが特徴なんです」

CFPとして活躍する近藤さん。今までの売り上げや経費など、会社の『過去』を踏まえながら、今後を経営者とともに考えていく。それが『未来会計』だと語る。

「どんな会社にしたいかをじっくりと聞いた上で、まず5年のスパンで考える。5年後に会社をどうしたいか目標を立て、内容を明確にします。その後、最初の1年間に何をするか、さらには1ヶ月ごとに売り上げなどの、数字の目標を出す。数字だけでなく、具体的な行動計画まで社長と話し合ってゆきます」

計画を作った後、実現しない場合は毎月見直ししてゆく。

「実行していくうえで差異が出る場合もあるので、そのときは、原因は何なのかを一緒に考えて、軌道修正をはかります。実際にすべきことを一番よく知るのは、社長や現場の社員さんたちなので、私たちの仕事は、舵取りのお手伝いといったところですね」

入社17年。組織を固める立場となり、社内業務も増えた。だがまだまだ「お客さまと接するのはやめられない」という。

「現場が大好きですから。責任は重いけれど、楽しいし、やりがいがある。責任と喜びの両方を得られる仕事だと思います」



吉永瑞能(52歳) ゼネラルマネージャー、不動産コンサルティング技能登録者
宅地建物取引主任者、1種証券外務員など 入社24目

「1人ひとりが担当する会社を持ち、何でもやらせてもらえるチャンスのある職場。
育成システムも出来上がってますし、夢を持っていれば、不安になることはないです」